

平成 28 年 12 月 7 日

呉市議会議長 加藤 忠二 様

特定非営利活動法人

呉サポートセンターくれシェード

理事長 上元新一郎



特定非営利活動法人

SYL

理事長 下野隆司



旧・青山クラブと桜松館の保存活用に関する提案書

趣旨

呉市中心市街地のにぎわい創出と回遊性を考えるとき、主要施設の間差点に位置するのが旧・青山クラブと桜松館である。これらは旧海軍施設であり歴史的なストーリーを持った建物であると同時に、戦後は一般に地域住民が利用できる施設として活用され身近な施設として存在してきた。今年防衛省が手放し、施設の今後の活用が不確かな中、市街地のにぎわい創出の検討の一環として、建物について市民有志での意見交換会や勉強会を実施してきた。旧・青山クラブと桜松館は他地域にない独自性を持つ「呉ならではの」巨大リノベーション施設となる可能性を持った大切な「地域資源」である。この場所を再考することは、まち全体の再興につながると考え、これからの活用提案をすると共に、活用の検討について市民が主体的に参加できる場を設けることを提案したい。

提案内容（詳細別紙）

別紙：

提案書「旧・青山クラブ・桜松館の保存活用から考える 呉市中心市街地周辺の『再興』」

〔主な内容〕

- ・現状分析
- ・活用提案
- ・試験活用の提案

旧・青山クラブ・桜松館の保存活用から考える
呉市中心市街地周辺の「再興」

提案書

平成29年12月7日

特定非営利活動法人 呉サポートセンター くれシェンド
特定非営利活動法人 SYL

目次

1、はじめに	p1
2、提案への経緯	
3、提案	p2
①現状分析 ～現在の価値～	
②活用提案 ～未来の価値～	
③試験活用の提案 ～今、生み出せる価値～	
4、これまでの調査と検討会	p15

1、はじめに

呉市中心市街地のにぎわいについて考えるとき、観光客の玄関口であり市民の交通のターミナルである呉駅と観光施設の「大和ミュージアム」、そこから徒歩20分圏内に位置する商店街エリアと入船山記念館エリアを全体で捉える必要があり、その中間点に位置するのが旧・青山クラブと桜松館である。

これらは、旧海軍施設であり歴史的なストーリーを持った建物であると同時に、戦後は一般に地域住民が利用できる施設として活用されていたこともあり、身近な施設として存在してきた。

昨今、多くの地方自治体が、インフラや建築物を新しく創るだけでなく、これまでの「地域資源」を保全活用する方法で、まちのにぎわい創出を進めている。広島県内でも、尾道市の空き倉庫を利用した「U2」や、三原市の廃校を利用した「旧・和木小学校」など、倉庫や廃校の利用は特に盛んである。

しかし、これから50年後の呉を思うとき、旧・青山クラブと桜松館は、その建物の歴史と市民にとっての存在感、また、昨年公開された映画「この世界の片隅に」のロケ地となったことで市外からの注目を集めており、全国の他の事例とは全く異なる「呉ならではの巨大リノベーション施設となる可能性を持った、大切な「地域資源」である。

この場所を再考することは、まち全体の再興につながる。

これからの活用提案をすると共に、活用の検討について、市民が主体的に参加できる場を設けることを提案したい。

2、提案への経緯

平成28年度に特定非営利活動法人 呉サポートセンター くれシェンドが呉市より受託運営した呉中央地区商店街活性化事業の一環で継続して開催していた、若手店主や商店街組合、市職員などの有志で呉市中心市街地のにぎわいについて検討する会議「レンガイロイロ会議（まちづくり会議）」での参加者からの提案で、旧・青山クラブと桜松館を含む幸町エリアについて、まちの周遊の観点から検討することとなった。

呉のまちなかの歴史を知る企画として、建物の見学を実施。その後、レンガイロイロ会議の中で引き続き議題の1つとして、意見交換会や勉強会を実施した。

呉市議会の公開資料より、総務委員会に於いて検討を重ねているとの内容を確認し、市民からの意見提案も行いたいと考えた。

会議での内容、また様々な関係者への調査をもとに、会議の進行役である特定非営利活動法人 呉サポートセンター くれシェンドと、呉中央地区活性化事業を契機として、呉市中心市街地エリアのまちづくりを主目的として平成29年9月に設立した特定非営利活動法人 SYLが活用法を提案する。

3、提案

「旧・青山クラブ」「桜松館」を、
市民の暮らしと観光、そして昔と今を“つなげる、交流拠点、へ

① 現状分析 ～現在の価値～

歴史的価値

【青山クラブ】

明治36年、この場所に旧海軍の集会所が置かれた。
大正10年に「呉海軍下士官兵集会所」となり、昭和11年に現在の建物となる。
眼鏡橋が旧海軍と市民のエリアの境目であり、その場所に位置した、集会所。当時は市民が利用できる売店もあり、「海軍」と「市民」がつながる貴重な場所だった。宿泊施設も備えており、海兵が家族と会える最後の場所でもあったという。



(呉名所)呉停車場と呉海軍下士官兵集会所 KURE STATION AND KURE SEAMAN'S CLUB (KURE) (昭和11年)
出典：広島県立文書館HP「長船友則氏収集資料」

終戦後は連合軍に接収され「呉ハウス」に。
現在も呉に支部を持つ国際NGO「YWCA」の英連邦の支部が施設内にあり、英連邦軍の女性や施設のスタッフと、呉市民との交流もある場所だった。

昭和33年より国の厚生施設となり、昭和34年に海上自衛隊（防衛省）の所有となる。
ボウリング場や武道場、食堂や簡易宿泊施設があり、市民も集うレジャー施設であった。
旧海軍時代には、市民と海軍をつないだ。
連合軍接収後は、市民と進駐軍、そしてその家族をつないだ。
自衛隊施設となってからは、海上自衛隊と呉市民をつなぐ拠点であった。
呉市が今後、歴史を生かした観光を進める上で、欠かせない「ストーリー」を持った建物である。

【桜松館】

明治38年に集会所構内に講堂と図書館展示室として設置。昭和4年に建て替えられて現在の建物となった。日露戦争で沈没した軍艦吉野と高砂を記念し、吉野の「桜」と高砂の「松」

から命名されたとされている。ホールを備えており、旧海軍時代には演劇などが上演されていたという。

使用していたかどうかの詳細は定かでないが、日本の音楽の歴史にも大きく寄与したとされる呉海軍軍楽隊、またその隊長を務めた河合太郎氏の存在も大きく、音楽文化振興の歴史を知る施設としても注目したい。連合国接収時についての詳細は定かでない。旧・青山クラブと同様に昭和34年に海上自衛隊の所有となる。昭和55年より、海上自衛隊 呉地方総監部の音楽隊の練習施設となり、ほぼ毎日、建物前の通りには音楽隊の吹奏楽の練習の音色が聞こえ、市民にも馴染みある場所となった。

建築的価値

【青山クラブ】

昭和11年竣工 RC造3階 地下1階

『広島県内に現存するおそらく最大の戦前期モダニズム（インターナショナルスタイル）建造物』（「arch-hiroshima」HPより引用）とも言われる。建築士は不明。施工業者は増岡組。丸いコーナーと横連窓が特徴。建物の一部に貴重なガラスブロックが使用されている。

建材となっているコンクリートの強度については、現在、呉工業高等専門学校 光井研究室と海上自衛隊呉地方総監部が進めている海上自衛隊呉基地内の地下壕の調査で、同年代のものと推測されるコンクリート素材が現在の耐震基準に耐えうるものである、との結果も出ており、青山クラブの素材も同等との推測ができる。



外観



柱



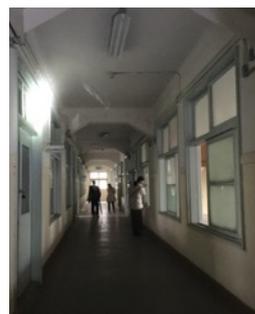
地下階から見た
ガラスブロック



2階部分の横連窓



屋上部分スクラッチタイル



3階廊下

【桜松館】

昭和4年竣工 RC造2階

ホール部分にはアールデコ様式の装飾が随所に施されており、「呉」に大砲、錨、桜の装飾がされたレリーフがあり、大変貴重である。

ホールは平面客席部分に200人程度の収容が可能。



外観



外観（正面）



舞台 ※平成28年イベント時



レリーフ



柱の意匠



ホール（横から）

立地的価値

呉市中心市街地において、市民の交通の拠点・観光客の玄関口であるJR呉駅と観光拠点である大和ミュージアム、海の玄関口である港湾がある「宝町エリア」と、国の重要文化財である入船山記念館と文化施設の呉市立美術館がある「幸町エリア」、市民の暮らしを支える「呉中央地区商店街エリア」をつなぐ中間点であり、現在呉市が抱えている「大和ミュージアムに来た観光客をいかに街に周遊させるか」という問題について要となる場所に位置している。

上記、歴史的価値の点でも述べたように、旧・青山クラブは様々なものを「つなぐ」場として存在してきた。

呉市の現状の問題解決に対し働きかける力を潜在的に持つ施設といえる。

呉市中心市街地主要施設の位置関係



② 活用提案 ～未来の価値～

旧・青山クラブをまちづくりと観光の複合施設、桜松館を芸術文化施設へ

【青山クラブ】

まちづくりと観光の複合施設へ

■ 大型リサイクル・リユースショップ

建築建材、家具、古着など、呉のまちで使われたものをそのまま、または加工品にして土産物を販売。

昭和30～50年代に建造された建物、またそこで使われる家具は趣向を凝らしたものが多く、今でも利用可能なものが溢れている。

これからの呉の発展のためには「壊して作る」だけでなく「活かして創る」ことが求められる。現在あるものを再利用する場を、旧・青山クラブという建物自体で表現し、中も拠点として活用したい。

まちづくりの拠点となり、呉にしか無いものが手に入る観光向けの店としても機能する。

例) 長野県諏訪市 「ReBuilding Center JAPAN」

元は建築会社で使用していた3階建ての空き物件を利用。廃材の仕入れと販売、廃材を利用した商品の開発や、廃材を使ってものづくりができる作業スペース、カフェなどを併設している。



「ONESTORY」HPより

■ 映画館 & 映画ギャラリー

呉は多くの映画作品のロケ地になっており、既に多くの作品のファンが「ロケ地めぐり」に訪れているが、呉市内の常設の映画館は「呉ポロシアター」1館のみであり、市民が身近で映画に触れられる機会が減り映画文化が失われつつあるのが現状である。しかし、近隣の広島市、東広島市には複数スクリーンを持つシネコンが乱立し飽和状態であり、これ以上シネコンが増えても集客が見込めない。「呉ならではの」特色ある映画館として、呉がロケ

地となった作品、またはゆかりの作品を集めて上映する映画館を設置したい。広島県域でも旧作上映専門の「名画座」は無く、他地域からの来客も見込める。

例) 京都府京都市「立誠シネマプロジェクト」

昭和3年に建てられ、平成5年に廃校になった立誠小学校を利用し、映画運営会社シネフィルムが平成24年から平成29年7月末までの5年間実施。映画上映のみでなく、映画関係者によるトークショーや作品の勉強会なども頻繁に実施。



↑「立誠シネマプロジェクト」HPより



■ カフェバー併設ライブハウス

現在、呉の中心市街地には150人規模の音楽ライブハウスが無い。市民ホール、またホテルなどのような形式でなく、様々なジャンルの音楽イベントができる平地のイベント会場が必要である。

旧・青山クラブは平地であり、150人ほどを十分収容できるスペースを備えている。観光客と市民のどちらにも利用しやすい立地を生かし、音楽の発信地としたい。



旧・青山クラブ 2階ホール



2階からの景色

■ コワーキングスペース・インキュベーションオフィス運営

フリーランス、また、産休・育休中などに自分の生活スタイルに合わせて仕事をする人向けにインターネット環境と印刷など事務作業スペースを備えた施設。現状、呉にはそうした施設がなく不便との声も出ており、多様な働き方を受け入れる施設として活用したい。小規模な講演会や勉強会なども実施できるフリースペースを兼ね、まちづくり拠点としても機能する。

例) 広島県広島市「シェイクハンズ」



「シェイクハンズ」HPより

■ 簡易宿泊施設（ゲストハウス）

「海軍が宿泊した施設」として、他に無い独自性を持つゲストハウス。

ゲストハウスは、アメニティサービスなどを省いた素泊まりの宿。客同士がコミュニケーションを図れる場として各地に増えている。旧・青山クラブには元々宿泊施設として使用されていた部屋があり、観光地と市街地を結ぶ立地としても適している。呉にはビジネスホテルが多いがゲストハウスは少ない。呉市中心市街地に平成29年8月にできた10床のゲストハウス「クトマレ」の経営者によると、土日はほぼ満室で稼働率は見込み通りである。観光客の増加で広島市内の宿泊施設が満室のことが多く、呉で宿泊を探す観光客も多いという。



広島県・広島市「つるや木賃宿」HPより



旧・青山クラブ内の廊下と個室

■ 呉物産館（市場）

週末に島しょ部などの農産物水産物物販をする。季節によってかき小屋なども。呉は牡蠣の生産量が日本一であり、島しょ部には地域ごとに特徴のある産品が多くある。地域住民と観光客が共に利用できる場にできる。

【桜松館】

街ににぎわいを生む複合芸術文化施設へ

■ 「この世界の片隅に」原画常設ギャラリー

呉市立美術館は、H29年に「この世界の片隅に」の原画を作者のこうの史代氏より寄託している。映画のヒットにより、呉には多くのファンが訪れており、原画を作品にとって良い環境で常設展示できる場所が必要である。

作品中には旧・青山クラブ（旧下士官兵集会所）、桜松館が描かれており、ファンにとってはロケ地めぐりの中で欠かせない場所となっている。まさにロケ地での常設展示ができることは、観光にとっても、市民が呉の歴史と文化を知る上でも有利である。

■ 音楽堂・講演会会場

ホールを講演会や音楽会会場として利用する。

呉市立美術館の今年（平成29年）の特別展「無言館」の関連イベントとして実施した講演会では、60名の定員に対し、市内外より予想を超える150名ほどの応募があり、美術館内の施設で対応できないため、急遽、近隣の学校にホールを借りて定員を増やした事例がある。また、平成28年の特別展「この世界の片隅に」展で実施したトークショーは、140名の定員を受け入れるため当時海上自衛隊所有であった桜松館を利用して実施している。来場者の多くは市外からの参加だった。

現状で美術館の企画に制限が生まれており、今後、様々な独自企画を進める上では美術館にホールは必要である。アールデコ装飾で芸術的価値の高い桜松館は芸術文化施設として適していると考えられる。



平成28年8月20日 「この世界の片隅に」原作者 こうの史代、監督 片瀬須直トークショー

- ミュージアムショップ
- 収蔵作品常設展示室
- レストラン

上記のいずれも、一定以上の規模の美術館であれば通常備えているが、現在、呉市立美術館には無い施設である。

特別展、また「この世界の片隅に」関連企画は市外からの集客も多く、美術館は文化芸術振興の観点だけでなく、観光客や地域住民にとってのにぎわい拠点としての価値も持つ。

にぎわい拠点としての価値を強化していくためには、様々な独自企画の幅を持たせる施設が重要である。

③ 試験活用の提案 ～ 今、生み出せる価値 ～

上記のような呉市中心市街地における市民の暮らしと観光の拠点として活用をするにあたり、本格活用までの間に、旧・青山クラブと桜松館一带をにぎわい拠点として利用することで呉市中心市街地全体にどのような価値が生まれるのか、市民と地元企業、行政が協働で実施する試験活用期間を一時的に設け、本格活用に活かすことを提案したい。

企画内容

- ① 旧・青山クラブ周辺を中心とした呉市中心市街地全体の周遊に関する検討会の実施
→ 参加者は市民有志、有識者、行政担当者など
- ② 施設の一部を利用した市民・地元企業・行政の協働による試験運用

実施スケジュール

平成30年4月～8月末 検討会の実施
平成30年度から平成31年度 試験活用

試験活用例

使用エリア：青山クラブ1階層の一部（コーナー部分にあたる1室）、中庭、桜松館 など

■大型マルシェ

「あさまち in 呉」 実施者：特定非営利活動法人 SYL

平成27年から呉中央公園、れんがどおりで8回実施してきた大型マルシェ。飲食と物販、手作りワークショップなど、主に呉の店舗、また呉市内の地域限定メニューなどを多く揃えて40店舗ほどで構成される。平成29年はスピノフ企画として、片山中学校円形校舎のお別れイベント、呉市長選の投票率アップキャンペーンなどに際し、会場に合わせて小規模で開催するなどしている。幅広い年代で集客力のあるイベントであり、エリアのにぎわいが周辺にどう波及するか実証するのに適していると考えます。



「あさまちin呉」 facebookページより

■音楽ライブイベント

「presentation」 実施者：SLD（有志団体）

呉市内の3店舗の店主で構成している有志団体が、平成27年から呉市内で年3回ほど音楽ライブを主催。様々なジャンルの音楽を呉のまちに届けている。

現在「ルポール青山」などで主に開催しているが、より多く定員を設定しようとすると、呉のまちなかでライブができる場所は極めて少ない。

市民と観光客がともに楽しめる場の提案を行いたい。



平成28年6月開催時

■映画上映会

「まちまちシネマ」 実施者：まちまちシネマ（有志団体）

呉市内の趣ある建物などで、その建物とゆかりある映画作品の上映をしている。平成28年に旧海軍施設である「呉YWCA」で上映を実施した。“呉ならではの、を生かす上映会として、ロケ地となった作品やゆかりある作品の上映を実施することで、呉の歴史を市民に伝え、観光客も集客する上映会としたい。



平成28年8月開催時

■学生との建造物調査

学生による呉の歴史調査 実施者：呉工業高等専門学校 光井研究室

海上自衛隊呉地方総監部敷地内の地下壕調査、また旧海軍長官官舎の構造模型作成などを実施しており、呉の歴史の学習の一環として調査研究や市民への発表などを実施する。

■ 旧・青山クラブを中心とした呉市中心部回遊の実証実験

「欲しい、呉の未来を実験する1日」を、検討会の内容を基に市民協働で実施する。

宝町エリア：大和ミュージアム、中央棧橋（呉市港湾漁港課）、呉駅、レクレ

幸町エリア：入船山記念館、呉市立美術館、呉YWCA

商店街エリア：中央公園（堺側沿い）、呉中央地区商店街一帯

交通 レンタサイクルの配置、バス周遊コース提案

例1) 愛知県岡崎市 社会実験「めぐる、QURUWA」

岡崎城跡の「総曲輪（そうぐるわ）」に重なる名鉄東岡崎駅、橋、岡崎城など公共空間の各拠点を結ぶ主要回遊動線という地域で平成29年10月に実施された社会実験。レンタサイクルの無料貸し出し、河川敷や遊休エリアでのアクティビティ、仮設店舗の設置を実施。

主催は岡崎市リバーフロント推進課、運営は地元NPO法人「りた」が担っている。

平成27年から平成32年の5年間「乙川リバーフロント地区まちづくりデザイン基本構想」をもとにエリアの再生を図るプロジェクト「おとがわプロジェクト」の一環。



例2) 呉市中心市街地イベントでの取り組み

周遊を促すための取り組みを様々な団体の協働の企画で行っている。同日開催のイベントの会場と回遊を促したいエリアをつなぐ無料ボンネットバスを運行。それぞれ、相互への誘客、また周遊は一定数見られた。

入船山公園周辺「入船山夏祭り」と大和波止場「クルーズ『銀河』とワークショップ」

平成29年8月27日に実施。入船山夏祭りの主催は入船山夏祭り実行委員会（大和ミュージアム・入船山記念館運営グループ、中元本店、ステッチハウス、特定非営利活動法人 呉サポートセンター くれシェンド）、クルーズ『銀河』企画の事務局は呉市港湾漁港課。入船山記念館～中央棧橋をつなぐ無料ボンネットバスを運行。中通など商店街エリアも走るコースとし、呉観光ボランティアの協力により案内付きで運行した。



大和ミュージアム前広場「レンガパークマーケット」とれんがどおり「あさまちin呉」

平成29年9月24日に実施。レンガパークマーケットの主催は、呉のお土産開発をする有志団体ブループロジェクト。あさまちin呉の主催は特定非営利活動法人 SYL。乗降場所はれんがどおり南口、中央棧橋、入船山記念館前の3ヶ所とし、イベント会場のみでなく観光エリアもつないだ。



企画実施者

以上のような試験活用のコーディネートと企画運営実施者として提案する。

- ① 検討会 特定非営利活動法人呉サポートセンターくれシェンド
- ② 試験活用 特定非営利活動法人 SYL

4、これまでの調査と検討会

平成28年度にくれシェンドが呉市より受託運営した呉中央地区商店街活性化事業の一環として、平成28年6月より月に1回のペースで継続して開催していた呉市中心市街地の若手経営者やイベント主催者、また市職員などでのまちづくり会議「レンガイロイロ会議」内での提案をきっかけに、呉のまちなかの史跡巡り「レンガイロ歴史探訪」として見学会を企画した。

以降、レンガイロイロ会議内での議題として計5回、会議の参加者による意見交換と、参加者の希望に応じて勉強会やヒアリングを実施している。

参加者は固定メンバーではなく、市民有志が毎回15~20名ほど参加。

平成29年2月20日	青山クラブ見学会	
平成29年5月24日	第1回 意見交換会	建物の解体反対署名発起人へのヒアリング
平成29年6月12日	第2回 意見交換会	呉市企画課へのヒアリング
平成29年7月6日	第3回 意見交換会	外部コーディネーターによる勉強会
平成29年7月27日	第4回 意見交換会	海上自衛隊OB「水平会」へのヒアリング
平成29年10月16日	第5回 意見交換会	呉市企画課へのヒアリング

■ 青山クラブ見学会

海上自衛隊 呉地方総監部 広報担当者による案内で地上3階、地下1階全体を見学した。

実施者：NPO法人 呉サポートセンター くれシェンド

実施日：平成28年2月20日（水）

参加者：20名

小野 くれシェンド、井上 くれシェンド、平田 呉観光協会、河崎 制服のフジ/ブループロジェクト、下野 ローカルズオンリー/あさまち実行委員会（現・NPO法人 SYL）、南川 入船山記念館職員、家頭 広島県建築士会 呉支部/呉YWCA、橋田 広島県建築士会 呉支部、大矢 つのくじら館広報、光井 呉工業高等専門学校、濱井 広島県建築士会 呉支部/呉市職員、上田 大和ミュージアムショップ、石田 石田カメラ店、井手畑 まちづくりサポーター、村上 ローカルズオンリー/あさまち実行委員会（現・NPO法人 SYL）、岩崎 くれシェンド、中西 呉高専教員、大田 呉工業高等専門学校、佐藤 呉工業高等専門学校、藤本 呉工業高等専門学校 ※順不同